

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「表現を工夫して短歌を作り、読み合おう」 教材名「たのしみは」

2 単元の目標

語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）
短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。（B(1)力）
自分が楽しさを感じる場面を選び、短歌の形式で表す言葉を工夫する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見付けている。（B(1)力）	①自分が楽しさを感じる場面を選び、短歌の形式で表す言葉を工夫する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

自分が楽しさを感じる場面を選び、短歌の形式で表す言葉を工夫する。この教材では、楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。想定する難しさは、作品の語だけを入れ替える、音数合わせで場面が曖昧になる。評価では、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見付けているかを、楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 日常の経験から具体的な瞬間を選び、短歌の音数と語順を確かめて書く。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○日常の経験から具体的な瞬間を選び、短歌の音数と語順を確かめて書く。友達が思い浮かべた場面を聞き、抽象的な語を替えるか判断する。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	3	○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。(B(1)力)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「何をしているどんな瞬間の楽しさを残したいですか」 【めあて】自分が楽しさを感じる場面を選び、短歌の形式で表す言葉を工夫する。 〈予想される児童の反応〉 ・楽しみの場면을詳しくすると自分らしさが出る。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「何をしているどんな瞬間の楽しさを残したいですか」 日常の経験から具体的な瞬間を選び、短歌の音数と語順を確かめて書く。友達が思い浮かべた場면을聞き、抽象的な語を替えるか判断する。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・楽しみの場면을詳しくすると自分らしさが出る。 ・音数だけでなく情景が伝わるか確かめたい。	独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。 想定する難しさ：作品の語だけを入れ替える、音数合わせで場面が曖昧になる。 評価では、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見付けているかを、楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見えた目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見付けている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・音数だけでなく情景が伝わるか確かめたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「何をしているどんな瞬間の楽しさを残したいですか」。中央は、楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

